

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ECC コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合		実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業	高度情報処理研究学科・ゲーム開発エキスパートコース ゲームプログラム専攻	夜・通信		2730 時間	320 時間	
	高度情報処理研究学科・ゲーム開発エキスパートコース ゲームCG専攻※	夜・通信		3450 時間	320 時間	
	高度情報処理研究学科・ゲーム開発エキスパートコース ゲーム企画専攻	夜・通信		3180 時間	320 時間	
	高度情報処理研究学科 IT開発エキスパートコース (新課程1.2年、旧課程システムエンジニア専攻3.4年) ※	夜・通信		2610 時間	320 時間	
	高度情報処理研究学科 IT開発エキスパートコース (新課程1.2年、旧課程ネットワークエンジニア専攻3.4年) ※	夜・通信		1710 時間	320 時間	

マルチメディア 研究学科 ゲーム プログラム開 発コース	夜・ 通信		2010 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 ゲーム 企画開発コー ス	夜・ 通信		2100 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 C G デザインコース 3 D C G 専攻	夜・ 通信		2700 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 C G デザインコース ゲームキャラク ター専攻	夜・ 通信		2790 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 C G デザインコース アニメ・イラスト 専攻※	夜・ 通信		750 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 I T 開発研究コース( 新課程 1.2 年、旧 課程システムエ ンジニア専攻 3 年) ※	夜・ 通信		1890 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 I T 開発研究コース( 新課程 1.2 年、旧 課程ネットワー クエンジニア専 攻 3 年) ※	夜・ 通信		1410 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 W e b デザインコー ス (新課程 1.2 年、旧課程 Web エ ンジニア専攻) ※	夜・ 通信		2730 時間	240 時間	
マルチメディア 研究学科 W e b デザインコー ス (新課程 1.2 年、旧課程 Web デ ザイナー専攻) ※	夜・ 通信		2790 時間	240 時間	

	マルチメディア 研究学科 グラ フィックデザイ ンコース※	夜・ 通信		450 時間	240 時間	
	マルチメディア 学科 システム エンジニアコー ス	夜・ 通信		660 時間	160 時間	
	経営工学科 I Tビジネスサポ ートコース I Tビジネス専攻	夜・ 通信		900 時間	160 時間	
<p>(備考) ※高度情報処理研究学科・ゲーム開発エキスパートコース・ゲームCG専攻は、新課程（ゲームCG専攻1.2年）と旧課程（ゲームデザイン専攻3.4年）の合算  ※高度情報処理研究学科・IT開発エキスパートコースは、新課程（1.2年）と旧課程（システムエンジニア専攻またはネットワークエンジニア専攻3.4年）の合算。2専攻で実務経験教員による授業時間が異なるため分けて記載。  ※マルチメディア研究学科・CGデザインコースアニメ・イラスト専攻は、新規学生募集停止のため3年次の授業時間数。  ※マルチメディア研究学科・IT開発研究コースは新課程（1.2年）と旧課程（システムエンジニア専攻またはネットワークエンジニア専攻3.年）の合算。2専攻で実務経験教員による授業時間が異なるため分けて記載。  ※マルチメディア研究学科 Webデザインコース※は新課程（1年）と旧課程（Webエンジニア専攻・Webデザイナー専攻2.3年）の合算。2専攻で実務経験教員による授業時間が異なるため分けて記載。  ※マルチメディア研究学科・グラフィックデザインコースは、新規学生募集停止のため2.3年次の授業時間数。</p>						

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Webサイトにて公表。【URL】<http://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECC コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf</a> 6 ページ参照
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員	2019年4月 1日～2021 年3月31日	学校経営に関する こと
非常勤	税理士	2019年4月 1日～2021 年3月31日	財務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ECC コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表  <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。</p> <p>第4章 単位認定</p> <p>第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。                  (1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%)以上であること。                  (2) 総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条(学期末試験・評価)                  各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。また、We bサイトでも公開している。

#### 第4章 単位認定

##### 第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。  
また、2020年度より実施予定の文部科学省による、「高等教育無償化の制度」適用条件の判定材料として、グレードポイントを設ける。

総合評価点	ランク	グレードポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

##### 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

##### 3 GPAの算出方法

$$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$$

※特別単位はG P Aの計算に算入されない。

客観的な指標の算出方法の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。 <a href="https://comp.ecc.ac.jp/about/hand_book/handbook2020.pdf">https://comp.ecc.ac.jp/about/hand_book/handbook2020.pdf</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  
教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、We bサイトでも公開している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。 <a href="https://comp.ecc.ac.jp/about/hand_book/handbook2020.pdf">https://comp.ecc.ac.jp/about/hand_book/handbook2020.pdf</a>
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	高度情報処理研究学科 IT開発エキスパートコース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3432単位時間	1200 単位時間	2910 単位時間	—	—	—
			4110単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数	
216人		199人	6人	8人	8人	16人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>(1) 授業出席率が75%以上であること。</p> <p>(2) 総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会(年2回)</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座(ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク)</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設(心理カウンセラー常駐)</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	0人 (0%)	31人 (96.9%)	1人 (3.1%)
(主な就職、業界等)			
IT業界(日本総研情報サービス、デジタル・インフォメーション・テクノロジー、さくらインターネット、IIJエンジニアリング、京阪ビジネスマネジメントなど)			
(就職指導内容)			
業界セミナー、学内説明会(年間100社以上)を中心に企業を紹介。インターンシップも有効利用。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
情報処理安全確保支援士試験1名、情報セキュリティマネジメント試験4名、データベーススペシャリスト試験1名、ネットワークスペシャリスト試験2名、応用情報技術者試験16名、基本情報技術者試験13名、ITパスポート試験9名、MBSD Cybersecurity Challenges 2019 入賞			
(備考)(任意記載事項)			



中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185人	16人	8.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振・進路変更・健康上		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク(友達作り)、担任面談の実施、出席管理(欠席者への電話連絡)、保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、学生相談室(心理カウンセラー常駐)、保健室(看護師・養護教諭)		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門	高度情報処理研究学科 ゲーム開発エキスパートコース				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3424単位時間	570 単位時間	3450 単位時間	—	—	—
			4020単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
624人	630人	7人	20人	18人	38人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a>
成績評価の基準・方法
(概要) 第7条(単位認定方法)各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点)各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点)平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価)各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・ 担任による個別面談</li> <li>・ 保護者会 (年 2 回)</li> <li>・ ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・ 入学前教育講座 (ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク)</li> <li>・ コア科目補習制度</li> <li>・ 学生相談室常設 (心理カウンセラー常駐)</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
100人 (100%)	0人 (0%)	95人 (95%)	5人 (5%)
(主な就職、業界等) ゲーム業界 (カプコン、KLab、Cygames、セガ、コナミ、バンダイナムコなど)、CG 映像業界、IT 業界			
(就職指導内容) 年 2 回の作品展示会 (各回 70 社以上参加) や学内説明会 (年間 60 社以上) を中心に企業を紹介。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) CG エンジニア検定 (ベーシック) 75 名、C 言語プログラミング能力認定 (3 級) 10 名、日本ゲーム大賞アマチュア部門佳作受賞、U-22 プログラミングコンテスト経済産業大臣賞受賞			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
564人	31人	5.5%
(中途退学の主な理由) 学業不振・学校生活不適合・進路変更・健康上・経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク (友達作り)、担任面談の実施、出席管理 (欠席者への電話連絡)、保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、学生相談室 (心理カウンセラー常駐)、保健室 (看護師・養護教諭)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	マルチメディア研究学科 ゲームプログラム開発コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2568単位時間	360 単位時間	2700 単位時間	—	—	—
			3060単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
98人	86人	18人	3人	3人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p> <p>【URL】<a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a></p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>（1）授業出席率が75%以上であること。</p> <p>（2）総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条（学期末試験・評価）各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。</p> <p>【URL】<a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p> <p>【URL】<a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会（年2回）</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座（ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク）</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設（心理カウンセラー常駐）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	17人 (89.5%)	2人 (10.5%)
(主な就職、業界等) ゲーム業界（セガなど）、IT業界（富士ソフトなど）			
(就職指導内容) 年2回の作品展示会（各回70社以上参加）や学内説明会（年間60社以上）を中心に企業を紹介。			
(主な学修成果（資格・検定等）) CGエンジニア検定(ベーシック)14名、C言語プログラミング能力認定(3級)2名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75人	3人	4.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振・健康上		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク（友達作り）、担任面談の実施、出席管理（欠席者への電話連絡）、保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、学生相談室（心理カウンセラー常駐）、保健室（看護師・養護教諭）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	マルチメディア研究学科 ゲーム企画開発コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2568単位時間	480 単位時間	2580 単位時間	—	—	—
3060単位時間							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
10人	3人	0人	1人	1人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
--------------------------

<p>(概要)</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a></p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>(1) 授業出席率が75%以上であること。</p> <p>(2) 総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会(年2回)</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座(ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク)</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設(心理カウンセラー常駐)</li> </ul>

<p>卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)</p>			
<p>卒業者数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 (自営業を含む。)</p>	<p>その他</p>
<p>5人 (100%)</p>	<p>0人 (0%)</p>	<p>5人 (100%)</p>	<p>0人 (0%)</p>
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>ゲーム業界(ケーター、バンダイナムコなど)</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>年2回の作品展示会(各回70社以上参加)や学内説明会(年間60社以上)を中心に企業を紹介。</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート試験1名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	1人	10%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク(友達作り)、担任面談の実施、出席管理(欠席者への電話連絡)、保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、学生相談室(心理カウンセラー常駐)、保健室(看護師・養護教諭)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	マルチメディア研究学科 CGデザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2568単位時間	540 単位時間	2490 単位時間	—	—	—
			3030単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数	
120人		117人	37人	5人	4人	9人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a>
成績評価の基準・方法
(概要) 第7条(単位認定方法)各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点)各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

<p>第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条（学期末試験・評価）各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。</p> <p>【URL】<a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p> <p>【URL】<a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会（年2回）</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座（ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク）</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設（心理カウンセラー常駐）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100%)	0人 (0%)	31人 (88.6%)	4人 (11.4%)
<p>（主な就職、業界等） ゲーム業界（カプコン、ケータースなど）、CG映像業界ほか</p>			
<p>（就職指導内容） 年2回の作品展示会（各回70社以上参加）や学内説明会（年間60社以上）を中心に企業を紹介。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） AFT色彩能力検定(3級)1名</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127人	12人	9.4%
<p>（中途退学の主な理由） 学業不振・学校生活不適應・進路変更・健康上・経済的理由</p>		

(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク（友達作り）、担任面談の実施、出席管理（欠席者への電話連絡）、 保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、 学生相談室（心理カウンセラー常駐）、保健室（看護師・養護教諭）
--

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	マルチメディア研究学科 IT 開発研究コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2568 単位時間	1020 単位時間	2040 単位時間	—	—	—
			3060 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数	
142人		149人	32人	4人	7人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a>
成績評価の基準・方法
（概要） 第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。 （1）授業出席率が75%以上であること。 （2）総合評価点が60点以上であること。 第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条（学期末試験・評価）各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
卒業・進級の認定基準
（概要） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
学修支援等
（概要）



<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会（年2回）</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座（ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク）</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設（心理カウンセラー常駐）</li> </ul>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37人 (100%)	0人 (0%)	34人 (91.9%)	3人 (8.1%)
(主な就職、業界等) IT業界（IIJエンジニアリング、センコー情報システム、TISシステムサービス、ヤマトシステム開発、NTTデータSBC、FPTジャパン、旭情報サービスなど）			
(就職指導内容) 業界セミナー、学内説明会（年間100社以上）を中心に企業を紹介。 インターンシップも有効利用。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 情報処理安全確保支援士試験1名、情報セキュリティマネジメント試験1名、 応用情報技術者試験5名、基本情報技術者試験8名、C言語プログラミング能力検定 (2級)1名、MBSD Cybersecurity Challenges 2019 入賞、 若年者ものづくり競技大会 業務用ITソフトウェアソリューションズ部門 敢闘賞 入賞			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
122人	6人	4.9%
(中途退学の主な理由) 学業不振・学校生活不適應・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク（友達作り）、担任面談の実施、出席管理（欠席者への電話連絡）、 保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、 学生相談室（心理カウンセラー常駐）、保健室（看護師・養護教諭）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業	工業専門	マルチメディア研究学科 Webデザインコース	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習

3年	昼	2568単位時間	690	2340	—	—	—
			単位時間	単位時間	3030単位時間		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
50人	52人	14人	3人	2人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a></p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>（1）授業出席率が75%以上であること。</p> <p>（2）総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条（学期末試験・評価）各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p> <p>【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a></p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会（年2回）</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座（ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク）</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設（心理カウンセラー常駐）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

9人 (100%)	0人 (0%)	7人 (77.8%)	2人 (22.2%)
(主な就職、業界等) Web・IT業界（メンバーズ、ミツエーリンクスなど）、広告・印刷業界（アイデム）			
(就職指導内容) 会社見学会、学内説明会などを通して学生に企業を紹介。 インターンシップも有効利用。			
(主な学修成果（資格・検定等）) A F T色彩能力検定(3級)3名、A F T色彩能力検定(2級)1名、 若年者ものづくり競技大会 ウェブデザイン部門 敢闘賞 受賞、 専門学校 HTML5 作品アワード 企業賞・デザイン賞・入選 受賞、			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	1人	2.4%
(中途退学の主な理由) 経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク（友達作り）、担任面談の実施、出席管理（欠席者への電話連絡）、 保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、 学生相談室（心理カウンセラー常駐）、保健室（看護師・養護教諭）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	マルチメディア研究学科 グラフィックデザインコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2568単位時間	630 単位時間	2400 単位時間	—	—	—
			3030単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
10人	4人	1人	1人	1人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、 到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有 され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全て の必修科目の授業計画が公開されている。

【URL】 <https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/>

#### 成績評価の基準・方法

(概要)

第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75%以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。

【URL】 <https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/>

#### 卒業・進級の認定基準

(概要)

教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

【URL】 <https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/>

#### 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による出欠確認、電話による対応
- ・担任による個別面談
- ・保護者会(年2回)
- ・ホームルームでのクラスワーク
- ・入学前教育講座(ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク)
- ・コア科目補習制度
- ・学生相談室常設(心理カウンセラー常駐)

#### 卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (5%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)

広告・印刷業界(ジャパン・アド・クリエイターズなど)

(就職指導内容)

会社見学会、学内説明会などを通して学生に企業を紹介。  
インターンシップも有効利用。

(主な学修成果(資格・検定等))

AFT色彩能力検定(2級)1名、  
若年者ものづくり競技大会 グラフィックデザイン部門 敢闘賞 受賞

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク(友達作り)、担任面談の実施、出席管理(欠席者への電話連絡)、保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、学生相談室(心理カウンセラー常駐)、保健室(看護師・養護教諭)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	マルチメディア学科 システムエンジニアコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1712単位時間	750 単位時間	1440 単位時間	—	—	—
			2190単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数		
92人	90人	49人	2人	7人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a>
成績評価の基準・方法
(概要) 第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施す

る。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
卒業・進級の認定基準
(概要) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。 【URL】 <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
学修支援等
(概要) ・クラス担任による出欠確認、電話による対応 ・担任による個別面談 ・保護者会（年2回） ・ホームルームでのクラスワーク ・入学前教育講座（ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク） ・コア科目補習制度 ・学生相談室常設（心理カウンセラー常駐）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32人 (100%)	4人 (12.5%)	22人 (68.8%)	6人 (18.7%)
(主な就職、業界等) IT 業界（ソフトウェア・サービス、デジタル・インフォメーション・テクノロジー、旭情報サービス、ヒューマンリソシアなど）			
(就職指導内容) 業界セミナー、学内説明会（年間 100 社以上）を中心に企業を紹介。 インターンシップも有効利用。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験 12 名、IT パスポート試験 7 名、C 言語プログラミング能力検定（2 級）1 名、Oracle 認定 Java プログラマ Bronze 29 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67人	3人	4.5%
(中途退学の主な理由) 学業不振・進路変更・健康上		

(中退防止・中退者支援のための取組)  
 クラスワーク(友達作り)、担任面談の実施、出席管理(欠席者への電話連絡)、  
 保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、  
 学生相談室(心理カウンセラー常駐)、保健室(看護師・養護教諭)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	経営工学科 ITビジネスサポートコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1712単位時間	1230 単位時間	840 単位時間	—	—	—
			2070単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任 教員数	総教員数	
80人		59人	18人	3人	5人	8人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。 <b>【URL】</b> <a href="https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/">https://www.ecc.ac.jp/syllabus/comp/</a>
成績評価の基準・方法
(概要) 第7条(単位認定方法)各科目の単位認定は以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点)各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点)平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価)各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。 <b>【URL】</b> <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
卒業・進級の認定基準
(概要) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。 <b>【URL】</b> <a href="https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/">https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/comp/</a>
学修支援等

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による出欠確認、電話による対応</li> <li>・担任による個別面談</li> <li>・保護者会 (年2回)</li> <li>・ホームルームでのクラスワーク</li> <li>・入学前教育講座 (ドリル教材・専門授業体験・クラスワーク)</li> <li>・コア科目補習制度</li> <li>・学生相談室常設 (心理カウンセラー常駐)</li> </ul>
---

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	18人 (81.8%)	4人 (18.2%)
(主な就職、業界等) IT業界 (SCSK サービスウェア、日本プレースメントセンターなど)、 製造業 ※PC 関連(CAD)職 (小松開発工業など)、一般業界			
(就職指導内容) 業界セミナー、学内説明会 (年間 100 社以上) を中心に企業を紹介。 インターンシップも有効利用。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) IT パスポート試験 3 名、MOS (Excel 2016) 8 名、MOS (Word 2016) 12 名、 秘書技能検定 (3 級) 8 名・(2 級) 2 名、ビジネス文書技能検定 (3 級) 10 名・(2 級) 3 名、 ビジネス実務マナー検定 (3 級) 10 名・(2 級) 2 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	13人	20.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振・学校生活不適應・進路変更・経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスワーク (友達作り)、担任面談の実施、出席管理 (欠席者への電話連絡)、 保護者会の実施、補習・補講の実施、教育・心理検査の実施、 学生相談室 (心理カウンセラー常駐)、保健室 (看護師・養護教諭)		



## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
高度情報処理研究学科	180.000 円	960.000 円	240.000 円	施設設備費
マルチメディア研究学科				
マルチメディア学科				
経営工学科				
修学支援 (任意記載事項)				
A0 入学奨学金 (給付型奨学金) ・学費減免優遇制度 ・特待生制度 ・山口学園学費分納制度 ・ひとり暮らし支援制度				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://comp.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/comp-self201909.pdf">https://comp.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/comp-self201909.pdf</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>1. 学校関係者評価の目的</p> <p>本校は実践的な職業教育の質保証、向上のために、自己評価、及びそれを基にした学校関係者評価を実施する。また学校関係者評価を行う主体として学校関係者評価委員会 (以下「関係者委員会」という) を設ける。</p> <p>2. 学校関係者評価委員会の構成</p> <p>関係者委員会は、関連業界等関係者、卒業生、保護者または地域関係者、その他校長が必要と認める者から校長が委託する委員により構成する。委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残存期間とする。委員は、再任することができる。</p> <p>3. 学校関係者評価委員会の運営</p> <p>関係者委員会に委員長を置く。委員は校長が招集し、委員長がその運営にあたる。校長が必要と認める場合は、委員以外の者の出席を求めることができる。関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。校長は自己評価の結果を関係者委員会に報告し、意見を聴く。関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。</p> <p>4. 学校関係者評価委員会実施結果の活用</p> <p>委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成する。校長は関係者委員会の評価結果についてその意見を尊重し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。</p> <p>5. 学校関係者評価結果の公表</p> <p>校長は学校関係者評価結果について公表する。</p> <p>本校では「学校評価実施規定」に則り、令和元年9月5日に第1回学校関係者評価委員会を開催した。平成30年度の自己評価報告書をもとに関係者の意見・評価を別途「学校関係者評価報告書」に取りまとめ、令和元年9月30日、自己評価報告書とともに学園ホームページ上に公開している。2回目の学校関係者評価委員会は令和2年2月1日に開催している。</p>

○学校評価の評価項目	
教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理念・目的・育人人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）</li> <li>・ 学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・ 理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> <li>・ 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・ 人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</li> <li>・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・ 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> <li>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職率の向上が図られているか</li> <li>・ 資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・ 退学率の低減が図られているか</li> <li>・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・ 学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・ 学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・ 保護者と適切に連携しているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> <li>・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか</li> </ul>
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか</li> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか</li> <li>・学生納付金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか</li> <li>・受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> <li>・学内での適切な体制が整備されているか</li> </ul>

#### ○学校関係者評価結果の活用状況

- ・継続率の問題（進級率）  
⇒学生サポートチームを発足、月二回程度定例ミーティングを行い対応してきた。また、後期より、学生の中から上級生をチューターとするピアチューター制度を導入開始した。
- ・資格・コンテストなどの成果が出てきているものの目標に届いていない点（就職）  
⇒ITの求人が増える中、条件のいい（福利厚生や給料）などに惹かれる学生の増加や、4年間の中でどこかであきらめるとモチベーションが上がらず浮上しない傾向が強い。下級年次からトータルで考え上げていく必要性を感じている。
- ・第三者評価受審に向けた内部質保証システムについて  
⇒今回改善を要する点の指摘はなかった。さらに良くする点はいくつかあったが、この委員会での話とリンクする部分も多かった。
- ・ITカレッジのカリキュラム改革 現状改善しているがスピードがまだ遅い  
⇒ITカレッジのカリキュラムに関して、モノ作り中心へ変更している。これまでカリキュラムが既存のものをベースに修正したものになっていたもので、次年度は大きく見直している。ただ、カリキュラムは形を作った状態の為、科目概要や中身はまだまだプログラミング言語取得にとどまっているものもあるため、踏み込んで改善していくことが課題。
- ・授業総合満足度の目標を達成できていない点  
⇒授業満足度が4に近づいた。上げ幅はこれまでにないほど大きく、力の付く授業も3.99となり4に限りなく近づき、嬉しい。学校設備満足度も前期に比べ上がった。学生の不満にこたえフィードバックすることで学生の反応が返ってくることを実感できた。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
インフォームシステム株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
株式会社アコードセブン	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
済美福祉センター連合運営委員会	平成31年4月1日～令和3年3月31日	地域関係者
立命館高等学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	高校関係者
キャノン IT ソリューション株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
	令和3年4月1日～令和5年3月31日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://comp.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/comp-school202003.pdf">https://comp.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/comp-school202003.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項) 2019年度に一般社団法人専門職高等教育質保証機構で第三者評価を受審。 2020年2月に一般社団法人専門職高等教育質保証機構のHPと、学校HPで第三者評価報告書を公表している。 <a href="https://qaphe.com/wp-content/uploads/2019techgraduateecccomp.pdf">https://qaphe.com/wp-content/uploads/2019techgraduateecccomp.pdf</a>		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://comp.ecc.ac.jp/">https://comp.ecc.ac.jp/</a>
--